

学校評価に見られる課題

～令和6年度学校評価～

学校評議員と学校評価委員の皆様による今年度の学校評価がまとめました。評価結果からは学力の向上を図るために「主体的な学び」を育む授業づくりについては一定の評価をいただきましたが、「自己指導能力」や「自尊感情」の育成など、いじめ・不登校の未然防止に向けた居場所づくり、絆づくりの取組を今後も努力していく必要があります。更には信頼される学校となるよう、地域との連携を深めることも大切と考え、次年度の課題としていきます。

【学校教育目標】「自己指導能力を身に付け、自ら進んで取り組む生徒の育成」

- A:できた(十分取り組んでいる) B:まあまあできた(取り組んでいる)
C:あまりできない(あまり取り組めていない) D:できていない(取り組めていない)

視点	評価内容	評価
学力の向上	自ら課題を持ち、自己の学習活動の振り返りを次につなげる「主体的な学び」に向かう授業の推進	A
	「問題解決能力」の育成を目指した「深い学び」に向かう生徒主体の授業の推進	B
	「主体的に学ぶ力」の育成に向けた定期的な学習集会による全校の合意形成	B
	生徒会が主体となった「学びの構え」の定着や学習規律の作成	A
いじめ不登校の未然防止	いじめ・不登校の未然防止に重点を置いた取組の充実と早期発見・早期対応の取組の継続	B
	あらゆる教育活動における「自己有用感に裏付けられた自尊感情」の育成	B
	規律ある学校生活を送ることができる自己指導能力を身に付けた生徒の育成	B
	認め合う意欲や優しさ、思いやりの心の育成・いじめの未然防止・道徳的実践力の向上	B
健やかな体の育成	基本的な生活習慣の定着と正しい食生活の見直し	B
	新型コロナウィルスやインフルエンザなど、感染防止に向けた対応の徹底と充実	B
信頼される学校づくり	危機管理意識の高い教職員集団の育成	B
	生徒の学びや成長の連續性を意識した学校間の連携の推進（小中連携・中高連携）	B
	地域への積極的な情報公開や発信及びP T Aとの連携	B
多忙化改善	教職員の意識改革と業務の時間的・人的な平準化による時間外勤務時間の減少	B

次年度の課題（次の3点を次年度、改善すべき重点とします。）

「学力の向上」

基礎基本の定着を図るために終礼時の学習ではドリル問題を中心に取り組みます。また、授業ではこれまで同様、生徒が自分で考えて問題解決を図る場面を設定し、主体的な学習へとつなげます。

「いじめ・不登校の未然防止」

他者に対する思いやりの心を育むために各種活動を通して他者のよいところを見つけたり、道徳の時間では意見交流を取り入れたりして、道徳的な心を深めます。また、いじめの早期発見のため、定期的なアンケート調査を継続します。

「信頼される学校づくり」

地域の学校として、保護者や地域の方々と連携した取組を計画します。また、学校の教育活動をホームページなどでこまめに発信することで、学校の様子を知っていただき、連携を深めています。